

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

認知症対応型共同生活介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人愛全会グループホームこがね虫の家	評価実施年月日	平成19年11月1日
評価実施構成員氏名	三浦淳子、大鎌豊子、越後美香、佐藤秀子、越田和美、山本文子、鎌田典子、上林恵子		
記録者氏名	三浦淳子、越後美香	記録年月日	平成19年11月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念を掲示板に掲げている。住み慣れた地域の暮らしを支える為の理念を、都度見直し、考えている。地域密着サービスを組み入れたユニット理念を作成したい。</p> <p>○</p>	<p>より理念にのっとったケアを心掛けている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>共有する時間を作り、具体的なケアについて、意見の統一、話し合いをしている。</p> <p>○</p>	<p>理念を日々、確かめて、ケアの実践をしている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の来所時、及び、月1回のお便りを通して理解をしてもらおう取り組んでいる。</p> <p>○</p>	<p>地域へは、理解を得る努力、工夫を更に行いたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>声かけ、挨拶を通し、日常的な付き合いをしている。</p> <p>○</p>	<p>近所の方から、野菜やお花を頂くこともあり、感謝している。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>行事のお便りを回覧板に載せてもらう等、交流に努めている。</p> <p>○</p>	<p>H20.1月町内会の新年顔合わせ会に参加予定。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	数ヶ月に1度の地域運営推進会議で地域の方々とのコミュニケーションを計っている。	○	将来的には、お茶会等を開き、地域にグループホームを開放を考えている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を、全職員に伝え、時間を取って話し合っている。	○	「第三者の目」を大切に実践を行いたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所側からの一方的な報告に留まらず、意見、要望を受けて、今後の課題に関するモニター役になっている。	○	運営推進会議の議題を生かし、地域に向け、7月21日の夏祭りの案内状を20部配布しています。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1度の札幌市主催の管理者会議への参加、及び、研修会に参加している。	○	区単位の研修会には、より多くの職員の参加を図っている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしている。	○	参考書、文献等も参照したい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する情報を掲示板に貼り、全職員が内容を把握し、実践に生かしている。	○	掲示板を日々、確認している。(具体的な内容が書かれている)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容を良く説明し、納得を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本位の運営を心掛けている。その時々利用者の不安や意見には、その都度対応している。	○ 利用者、ご家族と個別に対話する機会を、より多く持ちたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来所時に、生活の様子等を話している。健康状態の変化等には、早急にご家族へ電話で報告をしている。	○ (都合により)面会場数が少ない家族への対応を考えていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時、またはお手紙等でなんでも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。	○ より開放的に対話できるには、どうしたら良いか考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングを開いている。管理者は意見や提案を聞くように心掛けているが、把握できていない部分もある。	○ グループホーム事業室との連携をより多く持ちたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由なく暮らしをできる限り支えられるように、勤務調整等を行っている。	○ 勤務日を決める際には、話し合いを行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者やご家族との信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応する事を考えている。異動が止むを得ない場合も引継ぎの努力をしている。	○ 引継ぎはスムーズに行われている。(異動前にミーティングを行っている)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は、全職員が閲覧できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>研修には今後も多く参加する予定。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>3ヶ月に1回、札幌市の管理者会議と南区の管理者会議に出席している。</p>	<p>○</p> <p>同業者の職場を訪問する機会を設けている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室を確保している。職員の人間関係を把握するよう心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>体調管理を充分にし、早期の受診等を勧めている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員が向上心を持って働けるよう、機能評価を行っている。</p>	<p>○</p> <p>介護福祉士、ケアマネージャー資格受験の為の参考書を用意してある。</p>
<p>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に、事前面接を行い、ご本人、ご家族に、不安や困っている事を面接時、または、見学時に伺っている。</p>	<p>○</p> <p>入所前に、雰囲気を知ってもらう為、昼食会等を行っている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族が求めているものを聞き、良く理解し、どのような対応ができるか話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>小さな問題の受け止めにより、大きな問題とならない事もある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	将来的な相談が必要な相談者には、場合によって他のサービスに繋げる等の対応をしている。	○	要望があれば、他のサービス機関の紹介も行なえる。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染めるように、本人の好きな事を取り入れて、皆でレクリエーションをする等の工夫をしている。	○	家族にも、度々、来所を勧め、安心感を持ってもらう。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩という考えを職員が共有している。普段から利用者に教えてもらう場面が多い。また、そういう場面が多くなるように声掛けや工夫をし、セッティングしている。	○	昔話や、昭和20年代の流行歌に耳を傾ける事が多くある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を良く取るように心掛けている。その結果、家族との協力関係を築ける事が多くなっている。	○	ご家族との協力関係は、より信頼できるものとなるように努力したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の想いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事に家族を誘ったりし、より良い関係の継続に努めている。	○	短時間でも散歩、美容室に本人を連れて行く家族が増えてきている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人の訪問により、継続的な交流ができています。(大正琴等)	○	H19. 10月より、手芸教室も月に一回開催。地域の方が講師をしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の情報を、職員間で共有、連携し、心身の状態や気分を注意深く見守るようにしています。	○	フロアや二階に三人掛けの椅子、三人掛けのベンチを置き、くつろげる空間を作っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事務所へ移られた方にも、時折、会いに行ったり、積極的に向かっています。	○	退所者、家族に手紙を出し、近況を伝えている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし、本人の思いや希望の把握に努めています。	○	利用者の表情、行動の変化に対応する努力を常に行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の言葉や、家族、知人等の話を聞き、フェイスシート、センター方式のシートを活用し、生活歴を情報収集している。	○	家族からの情報を大切にしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。気配り、目配りし、気づいたり、感じたり、少しでも変化があった時は、申し送り等で把握するように努めている。	○	訴えの少ない利用者には、より注意深く観察している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や家族との係わりの中で、思いや意見を聞いて、職員全体で意見交換し、ケアプランに反映しています。	○	知り得た情報を職員が共有するようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の状況、効果等を評価している。また、状況に応じて見直しを行っている。	○	見直しは、都度、三ヶ月、六ヶ月、状況により、工夫している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や、本人の言葉、職員の気づきや、利用者の状態変化を個々のケア記録に記入し、職員間の情報共有を徹底している。また、それを基に介護計画を見直し、評価をしている。	○	継続していく事が大切と考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、デイサービスやショートステイ等の支援は行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して、地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換をする機会を設けている。	○	高校生、大学生等、地域の若い人達との交流も必要と考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じて、行事やレクリエーション等で配食サービスやボランティアを利用できるよう支援している。また、訪問美容室や近隣の市の公園等も利用している。	○	福祉会館でのイベント等に参加している。(バザー)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加している。	○	地域包括支援センターの職員を大正琴演奏会に誘い、利用者に関わってもらった。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる。(訪問診療)受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。	○	訪問診察時、(月二回)日頃の健康管理等について、医師と話をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問診察医により、利用者個々の対応ができています。	○	健康管理について、医師、看護師と話し合いをしている。 (24時間体制)
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週1回の訪問看護により、日頃の健康管理や、医療面での相談、助言、対応を行っている。	○	利用者の将来(病院、特養入所等)についても話し合っている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、本人の情報を家族より得て、医療機関に報告し、職員はできるだけお見舞いに行くようにしている。	○	見舞い時の様子、体調等、他職員と情報を共有している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の意向を伺い、事業所では、最大の支援を行なえるよう、医療機関と連携をとり行っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関と連携をとり、チームで話し合い、準備、検討している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在の情報を他の事務所へ提出し、今までの生活レベルの維持を心掛けている。	○	情報提供は、より工夫し、内容の濃いものに移行して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	過去の生活背景を入所時に伺い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けています。	○ 個人情報に関する事は、保管場所がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各利用者に合わせた声掛けを行い、職員の意見を通すのではなく、利用者様と一緒に話し合いの場を持って、利用者様の意見を尊重している。	○ 意思決定のできない利用者には、日頃の情報を考慮し、助言している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の様子を見て、買い物や散歩などの希望や思いに、その都度対応している。	○ 希望により、おやつ等を居室で召し上がる事もある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせ支援をし、日頃から化粧やお洒落を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。尚、美容室と連携を取り、馴染みの関係を作っている。	○ 家族とのコミュニケーションも兼ね、美容院へ外出する利用者もいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、方付け等を利用者と共に行い、また庭のトマト等も共に採りに行き、調理を楽しんで行っている。	○ 食事準備の内容を増やして行きたい。(味付け、仕上げ等)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人一人の好物を理解して、その状況に応じて楽しめるよう支援している。	○ 水分不足気味の利用者には、手作りゼリーを提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。	○	トイレ誘導時には、さりげなく行なうよう、職員が徹底している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて、いつでも入浴できるように準備を整えている。また、入浴時は好きな音楽を聴いたり、唄ったり、楽しんでいる。	○	浴室を暖め、快適な入浴の工夫をしている。夏はシャワー浴も可能。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。また、食後の休息を取り入れ、心身の安定を保っている。	○	現状を整えて行きたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意の仕事を活かし(料理、庭仕事、洗濯物干し等)日々、張り合いのある生活を支援している。	○	独自に編み物を楽しむ利用者もいる。ソックス等を編んでいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、家族の希望により、お金の所持に関しては、お預かりし、支払いに関しては、代行させて頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者様の希望や気分に応じて、日常的に買い物や散歩に出掛けている。春から、秋までは、畑で種を植えたり、出来たもの(トマト等)を収穫したりしている。	○	必ず職員が同行している。好みの花等の買い物は楽しみにしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中で、本人が行きたいと思う場所を聞き、職員間で話し合い、レクリエーションや外出の支援を行っている。	○	花火大会、雪祭り等には、同系事業所から、大型バスを提供してもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えや様子を見て声掛けし、電話使用していたっている。また、電話時、人が居ない場所で使用ができるよう配慮している。	○	はがき、切手等は常備している。いつでも書けるよう支援している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、知人が仕事帰りや都合の良い時間帯にいつでも訪ねて来ていただけるよう、面会時間は定めておらず、訪問者への居心地良い空間作りを心掛けている。	○	現状を変えないで行きたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	医療法人作成の身体拘束マニュアルに基づき実践している。	○	マニュアルを何度も読み返す事ができるよう、常備している。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出したい様子がある時、止めずに、声掛けし、スタッフと一緒に外出している。	○	職員は外出希望の様子を見逃すことのないよう留意している。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全スタッフが24時間を通して、利用者様の安全確認している。	○	日勤者、夜勤者間の申し送りを蜜にしている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状態により、保管が必要なもの、利用者様がいつでも使えるものに分けて、管理している。	○	利用者と一緒に整理、工夫をしている。(名、イラスト等)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災防火訓練、学習会等で得た知識を実践に活かしている。	○	行方不明時のパンフレット作成をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の講座に参加。知識を得ている。	○	すでに受講した職員も複数回の参加をしている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を年1回以上行っている。	○	町内会単位の防火訓練にも参加したい。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族への説明を重ね、一人一人の生活を大切にする事を常に心掛けている。	○	異物摂取のある利用者には、危険物を身近に置かないように徹底している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	系列、協力病院との情報交換を密にし、体調管理に毎日気配りしている。毎日、バイタルチェックを行っている。	○	訪問看護(24時間対応)との連携をしている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報内容を職員全員が把握している。	○	服薬情報書をファイルしている。常に、目を通してしている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、チェック表の利用等で便秘予防の対策を行っている。毎日の朝の体操や食材の工夫もしている。	○	重症になる前に、下剤の服薬等を行っている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいの声掛け、就寝前の義歯の消毒、歯磨きを毎日行っている。	○	口腔内の状態を観察している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の利用による水分摂取量の確保、食事量の把握をしている。	○	状況に応じ、きざみ食、粥等を提供している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	掲示物の利用、感染マニュアルによる、予防の実行をしている。	○	マニュアルを再読し、実践に活かしている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、調理器具の消毒、冷蔵庫の清潔、毎日の食材の買い物を行っている。	○	特に大掃除日（冷蔵庫、台所）を週一回もっている。（木曜日）
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	環境を整備し、花植え、テーブル、椅子等の配慮をして、明るい雰囲気を作っている。	○	外回りの除草、掃除、除雪を念入りに行っている。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物、生け花、入居者の作品提示などで、ゆっくり過ごせる工夫をしている。	○	室温、採光等も留意している。（暖房の調節、カーテン等）
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(リビングから離れた所に)椅子を置き、独りになれる空間を作っている。	○	フロアの片隅、二階にも椅子を置いている。利用者同士の話場になっている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の家具、衣類等、使い慣れた物を使用してもらい、居心地良く生活できるよう配慮している。	○	寝具類は常に清潔にし、洗濯を行っている。(週一回の交換と、その都度)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気の取り入れ、消臭剤の使用等で、新鮮な空気を取り入れている。	○	床暖房やストーブ等による乾燥を防ぐ為、加湿器や霧吹きの使用。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、すべりにくい素材(カーペット、手すり)の使用により、安全の確保をしている。	○	歩行を妨げる物は絶対に置かない。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	目印等の工夫(タンスの引き出しにマーク等)をし、混乱の少ない生活を支援している。	○	居室のわからない利用者には、さりげなく声掛け、誘導している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭作り、日光浴などが充分に出来る工夫(ベンチ、テーブルの配慮)をしている。(春・夏・秋)	○	雪像作り(雪だるま等)にも取り組んでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>入居者ひとり一人の思いを大切にすゝ介護を心がけている。</p>
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>ソファに並んで座り、お茶を飲んだり、買い物に出かける“一対一”の場面を多く作っている。</p>
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>夜、遅くまでTV・会話を楽しむ入居者もいる。</p>
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>お手伝い、レクリエーション等、多数が参加。笑顔が多く見られる。</p>
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>バスによるレク（紅葉見物、他グループホーム訪問等）や近所の買い物、散歩へ出かけている。</p>
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>月2回の訪問診察、月4回の訪問看護、24時間体制の電話による相談等のサポートがある。</p>
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>食事を居間で摂ることも可。家族と摂ることも可。</p>
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>(少数だが) 年一回程度のみ来所した家族もいてコミュニケーションが不足している現実がある。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>訪問看護師(週一回)ともなじみに なっている。 近所の皆さんにも声をかけてもらっている。</p>
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くない</p> <p>/// 近くの福祉会館にて“いざ”があり、 教名参加。グループホームの存在を 伝え、理解を訴えた。</p>
98 職員は、生き生きと働いている	<p>① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p> <p>日常、カンファレンス等を通し、 “言いたいことを話せる”雰囲気作りを 目指している。</p>
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p> <p>職員は、全入居者に常に気配りを している。</p>
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p> <p>年一回程のみ来所の家族もいて コミュニケーションが困難な場面も ある。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

月に一回、大正琴演奏会(ボランティアによる)を開催。  
近くにある同系グループホームとの交流を兼ね、演奏を楽しんでいる。  
総教数名近くになることもあり、皆、楽しみにしている。